

むくの うら ほ う ら く
 椋浦の法楽おどり

椋浦法楽会保存会

[出演者]

大西 貴志男 (織)	西本 茂樹 (踊り)	青木 信人 (踊り)	向井 久生 (踊り)
松井 年幸 (詩吟)	川島 康男 (踊り)	小山 廣士 (踊り)	村上 竜也 (踊り)
村上 和夫 (大太鼓)	東野 年矩 (踊り)	三宅 博 (踊り)	浜田 淳弘 (踊り)
山中 克司 (鉦)	小松 茂 (踊り)	村上 嘉彦 (踊り)	青木 望 (踊り)
堀尾 和義 (小太鼓)	沖 健司 (踊り)	松井 太 (踊り)	大西 隆義 (踊り)

[行方時期・場所]

8月15日
 長神社、金蔵寺、胡堂跡地前、
 椋浦海岸、墓地の前
 (尾道市因島椋浦町)

尾道市因島椋浦町の伝統行事「法楽おどり」は、今を去る六百有余年の昔、村上水軍が出陣・入陣に際し、兵供の士気を鼓舞するため始められたと伝えられる行事です。その後平穏な江戸時代となり、信仰の行事として「虫追い」「五穀豊穡」「疫病払い」などを祈願する行事へと切り換えられ、昭和56年4月17日広島県無形民俗文化財に指定されました。

毎年8月15日午後4時から、集落五ヶ所で実施され、先ず長神社境内で踊りを奉納祈願し、行事のスタートです。大小の太鼓と鉦の奏に合わせ「なむあみでーぼー」を7回唱え、次いで「とんだーとんだー」と刀を抜いて頭上にかざし、突進の構えで跳びながら前進します。続いて場所を移し、お寺・西の広場・干潮の浜辺、そして「卵塔場」つまり町内の集会墓地前で踊り行事は終わります。

踊りの装束は、男子に薄化粧を施すのが特長です。浴衣、袴、襷巻、手甲、脚絆などで身を固め、手には太刀、日の丸の扇子を持ち、出陣さながらの出で立ちです。踊りの所作は行進、念仏の雄叫び、突進を繰り返す、極めて単純素朴な踊りです。

その昔、集落に原因不明の疫病がはやり、何人もの死者を出し多くの人々が嘆き悲しました。古老の話では「少なくとも明治時代以後、雨風を厭うことなく一度たりとも欠かさず、踊り継がれてきた」と言わしめる程、集落にとって重要な伝統行事です。

